

平成 2 9 年 第 1 2 回

富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

平成 29 年 10 月 23 日 (月)

開会午後 1 時 30 分、閉会午後 2 時 47 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1 番 烏海 清司

2 番 山崎 弘一

3 番 町野 利道

4 番 藤重 佳代子

5 番 村上 美也子

教育長 渋谷 克人

IV 説明出席者

教育次長 山下 康二

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 五十里 栄

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 廣島 伸一

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 金谷 真

保健体育課長 秀永 倫明

V 傍聴人数 1 人

VI 会議の要旨

午後 1 時 30 分、渋谷教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(平成 29 年 9 月 28 日開催の平成 29 年第 10 回富山県教育委員会会議録及び平成 29 年 10 月 4 日開催の平成 29 年第 11 回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

渋谷教育長から可否を諮ったところ、全員異議がなく承認した。

2 議決事項

議案第 36 号 平成 29 年度教育委員会の事務の点検及び評価結果報告書 (平成 28 年度分) の件  
教育企画課長より説明し、原案のとおり可決した。

議案第 37 号 平成 30 年度富山県立高等学校入学者募集要項制定の件

議案第 38 号 平成 30 年度富山県立特別支援学校高等部・幼稚部入学者募集要項制定の件  
県立学校課長より説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

(1) 「富山県教育フォーラム」の開催について

(2) 第 8 回「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの結果について  
教育企画課長から説明した。

(3) 平成 29 年度「高志の国文学」情景作品コンクールの結果について

(4) 常願寺川砂防施設の国重要文化財指定について  
生涯学習・文化財室長から説明した。

(5) 第 72 回国民体育大会の結果について  
保健体育課長から説明した。

4 その他

今後の教育委員会等の日程について  
教育企画課主幹から説明した。

## 5 議決事項

午後 2 時 26 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議案第 39 号については委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。  
議案第 39 号 異議申立てに係る決定に関する件

## 6 議事

### ○議決事項について

#### 議案第 37 号関係

〔村上委員〕

- ・推薦入学の募集人員は例年と異なる部分があるのか。

〔県立学校課長〕

- ・内容は変わっていない。

〔教育長〕

- ・日程で言うと、去年とほぼニアイコールで暦に従っていると思う。去年の一次の初日はいつだったか。

〔県立学校課長〕

- ・今は手元に資料がない。

〔教育長〕

- ・大体去年と同じ時期にやって、同じ時期に発表しているはず。

〔県立学校課長〕

- ・ほぼ同じような時期である。

〔教育長〕

- ・基本的には大きく変わると子どもたちが色々と混乱するので。

〔町野委員〕

- ・学級数について、例えば 30 ページの全日制の 173 学級という部分は、前年度は何学級だったのか。

〔県立学校課長〕

- ・今年度は 9 学級減らしたので、9 足して 182 学級である。

〔山崎委員〕

- ・定時制の課程については昨年度と同じということだったが、実施の月日はともかくとして、募集定員の数以外の他のところで変更されたところはないのか。

〔県立学校課長〕

- ・変わったところはない。

〔教育長〕

- ・変えるためには結構早い時期から色々仕上げないと子どもたちが混乱する。それから、指導している中学校の先生たちにも迷惑がかかってしまう。

#### 議案第 38 号関係

〔山崎委員〕

- ・ここ 6~7 年のうちに高等特別支援学校ができたことを含め、高等部の入試についてはずいぶん大きく変わったところであるが、ここ数年来、大体固定して変わっていなかったという気がするが、今回の変更点で気になるところが、49 ページの新旧対照表で、今までは志願の方法のところ、その他ということ、「志願にあたっては教育相談等を受ける」となっていたが、この「等」というのは何を指すのか。

〔県立学校課長〕

- ・教育相談の他に、いわゆる専門的なアドバイザーの方が入ったりした上で、子どもの実態を把握するといったケースも含めて教育相談とさせていただいている。

〔山崎委員〕

- ・そういうことかとは思いますが、それがその他の部分から志願方法の中の(2)に入ったことで、「ねばならない」という必須のニュアンスが強く出ているように思うが、それだけにどこで相談を受けたのか明確に

していかなければだめなのではないかと思う。

〔県立学校課長〕

- ・実際のところ、子どもたちは志願する学校の教育相談は必ず受けている。志願する前にやはりその学校に対する理解を深め、そこで本人が教育を受けることが他の学校に比べて望ましいということが、本人はもちろんだが、保護者の方、あるいは学校の先生、お医者さん等も含めて、そういった方の意見を総合的に判断するために必要な回数を実施することとしているので、必須という状況に捉えられるかと思う。これまでも丁寧に実施しているので、双方了解の上、学校の方でも受け入れているといえる。

〔山崎委員〕

- ・今までと変わらないということか。

〔教育長〕

- ・募集要項上の話として記載を変えるわけではないが、マストという形になったので、「等」というのは何かということ留意点、注意点ということで別紙をつけて皆さんにお渡しする形だと間違いないので、担当課にはそういう対応をしていただこうと思う。

〔町野委員〕

- ・相談記録は残るのか。

〔県立学校課長〕

- ・残っている。

〔町野委員〕

- ・今回の改定で、検査をやめて相談にしていこうというのは、より人間として扱うことになると思うので、非常に好感が持てる。特に社会的弱者に対してはもっとケアを強めて人間らしく扱っていく方向になっているので、非常に良いと思う。

〔山崎委員〕

- ・同じく49ページに、県外海外からの志願者についての記載がある。従前のものはそこで詳しく書いていたのだが、今回(7)として2に定める志願資格を有する者として出しており、2にあたるものが33ページの志願資格、2行目の「保護者とともに県内に居住し、次の(1)～(3)のいずれかに該当する者であって」とあるのだが、この表記で問題ないか。29年3月までに卒業見込みということは県外の学校で見込みという状態であると思う。居住することが見込まれるという文言であれば良いが、現在のことを言っているような気がする。

〔県立学校課長〕

- ・「居住し」というのは基本的には生徒さんが4月以降入学されるときに居住しという意味合いで書いてある。

〔山崎委員〕

- ・誤解が生じないようにだけしてもらいたい。

## ○報告事項について

### 報告事項(5)関係

〔村上委員〕

- ・富山ストリートマルチサポート事業というのはすべての種目のスポーツについてあるものなのか。

〔保健体育課長〕

- ・競技団体のなかで、コーチ等が希望している団体に対してサポートすることになっている。

〔村上委員〕

- ・ジュニアからの一貫指導というのは、具体的にはどんな種目があるのか。

〔保健体育課長〕

- ・ボートやカヌーなど、今回活躍した種目である。それに関しては各競技団体に育成計画を作成しており、ジュニア期はこういうことをやろうとか、中学生はこうしようと一貫したものをしっかり持っているところが得点を重ねている。

〔鳥海委員〕

- ・大会結果としては目標を下回ったが、優勝数も入賞数も増えているということで、増えていれば普通は結果のところを満たしても良いと思うが、これを満たすための優勝数や入賞数の目安はどのくらいになるのか。

〔保健体育課長〕

- ・当然、優勝数、入賞数を増やすことに固執はないが、ご存知のように、これは得点で競うわけで、一つは参加点と競技点があり、参加点については各競技に与えられるので全国ほとんど差がない。競技点に関しては1位～8位、入賞者によって点数が入るのだが、これは競技人数によって点数が違う。例えば水泳とか陸上とか一人で勝負するものなら1位が8点、順に7、6、5、4と変わる。2人から4人で戦うものは、1位が24点、5人から8人の場合は40点、野球、ソフトボール、サッカーなど9人以上でやるものは1位が64点である。そのため、今申したように入賞者数が増えることに越したことはないが、そういう高い得点の競技で頑張ってください。早い話、去年は988点で21位だった。今年と約167点違うが、去年はホッケー4種目すべて出場し、ホッケーだけで150～160点取っている。ホッケーに関しては福井も大変強く、また来年は福井で国体が開催される。今年は今種目代表権を福井に持っていかれた。そういうことも結果に表れている。

〔鳥海委員〕

- ・人数が大きい団体競技が入賞してくれるところを目指すということ。

〔保健体育課長〕

- ・来年は福井県は開催県枠で出るので、多分本県は全種別ホッケーは出られると思う。ただ抽選の関係で福井県と絶対逆の山に入るので厳しい戦いになるのも事実である。

〔教育長〕

- ・国体は昔、各県でやっていたが、最近はブロックで、北信越というブロックで勝ち上がらないと本大会に出られない競技が多々ある。ほとんどがそうである。各県に与えられているものが少ないくらい。そういった中で、まずホッケーというと富山も強いが、福井も力を入れていて、どちらかが勝つ。インターハイで優勝しても国体に出られない年もあった。富山の石動高校とか。どっちが勝つかによって、本大会にさえ行けば実績を残せるので、そこをクリアすることが大きいという形で、特に来年に国体を控えた福井県はそれはもう一生懸命やっている。今年残念ながら行けなかったということだが。鳥海委員からも指摘があったが、実績とすれば胸を張れる形になっている。多種目から入賞者、優勝者が多々出ているので活気があるなという気がするが、点数に換算すると団体競技の分での差になり、だからといってそこばかり力を入れるわけにはいかず、そこが悩みの種である。

午後2時47分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。